

# にしっこ 西っ子のみなさんへ 104 9月1日

今日、9月1日は「防災の日」です。1960年6月の閣議で了解されました。

9月1日を防災の日とした理由は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では「二百十日」に当たり台風シーズンを迎える時期であること。前年の1959年に戦後最大の台風被害となった「伊勢湾台風」が日本を襲ったことがあげられます。国民みんなの地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、「防災の日」が創設されました。

1960年9月1日発行の官報資料に登載された「防災の日」の創設に関する記述には、「政府、地方公共団体など関係諸機関はもとより、広く国民の一人一人が台風、高潮、津波、地震などの災害について、認識を深め、これに対処する心がまえを準備しようというのが、『防災の日』創設のねらいである。もちろん、災害に対しては、常日ごろから注意を怠らず、万全の準備を整えていなければならない。どうすればよいかということ、みんなが各人の持場で、家庭で、職場で考え、そのための活動をする日を作ろうということで、毎年9月1日を『防災の日』とすることになったのである。」と記されています。

今年の夏休み中にも、岐阜県を含め各地で大雨の被害に遭い、多くの人命が失われました。特に山の近くで起きた土砂災害は、津波と同じようにあっという間に押し寄せてきてしまうため、前もって避難していないと逃れようがないということを改めて感じました。

中学時代の友達の家が山の上にあったのですが、家の裏は崖になっていました。やはり停滞前線による大雨のためその崖が崩れ、家の土台となる地面の1/3近くが無くなってしまい、長い間避難生活を送っていたことがあります。夜中に隣に住む人から、家の下がなくなっていると教えてもらい、びっくりして避難したということでした。もう少し崖の崩れが大きかったら、家ごと転落して命がなくなっているところでした。

その状態を私も自分の目で確認したのですが、本当に家を支えるものがない状態で、よく崩れ落ちずに済んでいるなあと寒心したことを思い出します。

西小校区は、瑞穂市全体としては少し高いところにありますが、今回の大雨の時には冠水したところもあるようです。瑞穂市から各家庭に防災読本・防災マップが配布されています。自分が住んでいるところや通学路などの環境については、家の人と一緒に確認しておきましょう。そして、いざという時の家族内での約束を作っておきましょう。

